

新潟・三条市に納入

セシウム材 吸着

環境 浄化研 がれき処分場向け

【前橋】環境浄化研究所(群馬県高崎市、須郷

高信社長、027・322・1911)は、放射性セシウムの吸着材を新潟県三条市内の震災がれきの処分場に納入する。

は初めて。三条市は処理に遅れが目立つ岩手県大槌町のがれきを受け入れを10日に始め、11日から試験焼却する。年末までに保管体制を整備する。

味で、材料に放射線(ガンマ線)を当てて元の素材の分子を切り、代わりに別の機能を持った材料を付け加える。今回はナイロン繊維にセシウムを吸着する「フェロシアン化コバルト」を加えた。

度は加工能力は従来比3倍の約300キロに拡大した。現在主流のセシウム吸着材はゼオライトやフェロシアン化金属化合物という微粒子を用いるが、吸着力が弱く扱いも難しかった。

焼却灰を埋め立てる土壌層の下に5万平方メートルの吸着ネットを敷く。排水を通す水処理槽にも設置する。同社が自治体の処分場に吸着材を納入するの

「グラフト重合」という技術を使い、千葉大学などと開発したセシウムを結合する繊維を納める。グラフトは「接ぎ木」の意

除染で実績を持つ。受け入れ予定のがれき量は、一ヶ所当たり約100立方メートルのセシウムが100立方メートル以下の木くず。焼却灰は吸着シートを敷いた厚さ50センチの土壌層に埋め立てる。土中に浸透する水については、水処理槽の中に吸着モジュールを置いて河川への流出防止を徹底する。市

は吸着材を導入することで住民の不安払拭につなげる。吸着材の量産体制も準備する。電子部品製造で協力企業のサンエス工業(高崎市)で約7500万円を投じてグラフト重合の反応装置を増強。一度の反応装置を増強。一度の反応装置を増強。一度の反応装置を増強。

グラフト重合は、セシウムを結合する繊維を納める。グラフトは「接ぎ木」の意

「グラフト重合」という技術を使い、千葉大学などと開発したセシウムを結合する繊維を納める。グラフトは「接ぎ木」の意

「グラフト重合」という技術を使い、千葉大学などと開発したセシウムを結合する繊維を納める。グラフトは「接ぎ木」の意

須郷社長は「日本原子力研究所(現日本原子力研究開発機構)の出身。グラフト重合を活用し、各種消臭剤や空気清浄機などを手がける。近年は海水ウランの捕集やヨウ素、ストロンチウムを吸着する繊維を相次いで開発している。」



ナイロン繊維を反応させて吸着材に仕上げる

は初めて。三条市は処理に遅れが目立つ岩手県大槌町のがれきを受け入れを10日に始め、11日から試験焼却する。年末までに保管体制を整備する。

は吸着材を導入することで住民の不安払拭につなげる。吸着材の量産体制も準備する。電子部品製造で協力企業のサンエス工業(高崎市)で約7500万円を投じてグラフト重合の反応装置を増強。一度の反応装置を増強。一度の反応装置を増強。